

みずの しゅか
水野 朱華さん
(武生五中2年)



互いに認め合う社会に

ハンセン病患者が、感染力の弱い病気にもかかわらず、厳しい差別や偏見、強制隔離を受けていたことや、強制隔離が法制化されていたことを悲しく思った。ハンセン病患者やその家族が過去に受けた精神的な傷は、何年たっても癒えるものではないが、首相は、差別・

首相「心からおわび」

ハンセン病元患者家族に謝罪 補償へ法整備表明

安倍、強硬の行方

かたての熱

立民の比例得票激減

政治判断 異例の対応

救済策実現は 課題山積

偏見の根絶に向けて政府一丸となつて全力を尽くすことを強調した。ハンセン病に限らず、いじめ問題や差別問題は今後も後を絶たない。人はそれぞれ生まれ持った個性があるし、人と違って当たり前なので、それを否定するのはおかしい。個性や人と違ってるところを自分の長所にして生活に生かせるといい。

学校生活の中で心がけていることがある。いじめや差別にならないように考えて行動したり、言葉を発したりすることだ。自分の言動一つで傷つく人がいるかもしれない。差別や偏見のない社会の実現に向けて、まず自分の身近なところから、相手と自分の違いを認め、互いに尊重し合う気持ちを大切にしたい。

7月25日付(5面)